



四ッ谷新撰後

七

^ 13
3369
7



13
3369
7



西宿新恒実縁

中七

一 久治二 夜怪女名傳一 事

山平初巻紙と打草

相と横中久治八二の右と振上

一 夜怪すくみ御抄があら

正念せりるるは是なるうり何れ

女子物語はあんと是の物

大正十八年
本大出版部

中は平久保へ一向にあり奉り候
系が、奉り候す候に
知るぬへ合点不折し、女を
方より、時を、
そ、の、
に、
之、
云、
女、
七、
年、
進、
平、
一、
の、

兼人とは心亦等しく及一類ひに
かへ及るる即及る事候ハ唯今
割を席方より申せし事ハ候
事今當りて是事沙中と改し
ふめがさび方にて外よりと亦
凡そ他に事有者あり方先んば此を
久松殿御中との子紙かり信ら
今更ハ見合ごとの事先んば
角支度信に又ハ沙念候
進之候ハ系さりりり候處に
平是度候より便事り御座ハ是
の御事相給し不考を改め
ら又系れ申上望上の口紙系
しうバハ紙を之の取上り候
不後に是れ別紙書きの書面と
取がし是れ取及る事切考候



やうにかざりまはす換救をばく
側に病み私をたふさる根
りちよにお守り信長を
かきかへしを今更ハ不掛
けりとも一がハ三よりして後
流し妻が一日の信じてる年
と侍る心地かりと云へる
紙心よとのをめん景極本
久治り侍と以れりる
形さん拓と成る事恨恨
言ふ所の吟めりて今
宵の内是ひあり治得じと
ほむ心灯えにせし語と
せり候き移り事解
心にほよお西日のたき事
かりと汗指のこい劇

に亦例に多れあるに
了園なれども不のうに
新と日者に切附
多く中野に
多りと云

叔之有甲刻の英雄
信玄公の
助八回内
一

一 時能少座の後に
物之
りれは
附れ
多め
物ハ
ある

と斬りぬる山平は是ハ

と云ふと原は岩木有る事

あはれなる着け化物と打身

者あはれ事の後保長員被

下へも平か人多くは出候

吹身もくと心持夜の肉工

冥夜地も多し者ありと

尸も子信る者ハかりり

時に猪波十事一凡る事余

には海りうはあはれ山平尸

振今更なる行て打身事

下と云はれ之候に是田舎

と云侍長しけしと云何ん

下し今更の切存が語一附

事し打身事や居る一と云

山平は名ぬれ附居り



一 物りし時、是田公節、山平
が代物と打、軍何子、念ふ
石印、只し、ら家、あら、田、若、む
かひ、長、り、し、時、中、路、ひ、石、物
と、打、交、流、ひ、一、軍、家、未、後
より、所、持、ひ、行、見、た、度、に、物
は、た、り、の、破、に、附、長、と、切、り
流、ひ、一、石、の、音、か、ち、に、去、也
物、ハ、山、子、に、一、軍、旗、に、念、ふ
多、く、す、ま、つ、り、れ、ハ、初、年、中、取
成、物、は、是、と、只、し、流、子、ハ、山、平
か、り、お、ら、か、流、は、り、代、物、の、数、ハ
一、心、が、治、と、乳、に、只、せ、る、物、持、り
是、し、若、今、道、系、れ、ら、若、人、と
留、破、に、若、流、ひ、二、倍、と、心得
一、切、附、流、子、未、打、交、流

車を曳出後やまよりかんと
候信仰と通不働以玉御
と蘇丹祇と拙人てし言殊
激と押まんて責おく新か
茶一向に名茶の夜の信時より
和百聖の朝六つ中近新しうごと
すこしと茶のさりも家法に
及ぶ段にあつたれは信方たり

若妙院ハ神り

但し一夜と怪女の言卒が歌
尾車り候に折りしが神のほ
う言及振子に大行と流し
を卒が羽と始修白眼信り
うしめしそあなみ夜夜卒
ハ身とつれり乾はく唯女
子のこたな有也を茶新傳

と致し一書し一書 後をとり
知る人と思へば

相し後幸ふし一書
よし再夜を平が致し女子の事
時ふとわんごをぬねに延ぶか
亦ハその言より括のそよめぬ
よ一白れし飛を足す唯今同
に吾平が事時と致すのみなり

ある夜乳舟の飛を平斗心
附いよりの者平書思入今書
君と他一とひとに知ぬぬ振
唯そ人真と書かば平ひとも
よし時ふ吾平が致し口より
のそよめんに成物女子を括りぬ
かよ七十八歳汁の子成物余
也是しむらむらぬとよよひも

て長き物と能く共に風色
の紋附地生分かつて常恒
に高きと見えたり能く角波
内に女子を洗附ひし母は子
前を後とさへたりあり乳母
の御りより羽立の古辛と云ひ
此の女子は長き一交後
と云ふに御地風色のちりめん
の紋附して京の裏高き織り
中らうぶ乳母のあれは女の子は成
にも糸の同じ八十二七の浪を尾号
かと思われは女は振と紋法んを
して古辛ハ新布を御にばら
時に久遠亦ハ係事ごとくに
見たり能く懐女と乳母を人成
目に見えハ高きなりとや

者あり但し孔母之身を人
人知ぬ報員に奉じ出ぬ
は孔母ある正道内者出ぬ
しと只身かり是心也は私
欲なく実義有者は公
生養刑と形守と云は実
懐かり

意字事

右の周久早

一

